



第553号 令和6年8月1日  
発行所 京都市学校医会  
京都市中京区間之町通竹屋町下ル  
楠町601-1 こどもみらい館2階  
TEL (075) 256-0351  
FAX (075) 241-3568  
発行人 井本雅美

## 京都市教育委員会との懇談会と指定都市学校保健協議会

会長 井本雅美

7月20日に、京都市教育委員会との懇談会が開催されました。教育委員会からは稲田教育長、体育健康教育室の清水室長、井上課長、西村係長に出席していただき、学校医会からは、耳鼻科、眼科を含め17名が出席し、活発な意見交換がなされました。

まずは定期健康診断について。今年度は文科省からの新たな指針にのっとっての初めての健診であったため、教育委員会から全市立校に対し、健診時の着衣の状況、胸部聴診の対応、健診にかかった時間などについて調査が行われました。この中の、健診にかかった時間ですが、70%の学校は例年とほぼ同等の時間で、例年より時間を要した学校は18.8%と意外に少ない結果でした。着衣健診のため服をめくるなどの手間がかかる一方、健診が簡略化されたケースもあるのか？あるいは教員による介助の徹底が関係しているのか？学校によって様々な要因があると思われ、もう少し分析が必要かもしれません。また、学校医から学校への要望も上がっており、その中で、着衣健診では脊柱検査が正確に行えないことや、皮膚疾患を見落とす可能性があることへの危惧、そしてそのことについて保護者に周知、理解してもらうことが必要、という意見が目につきました。この調査ではごく一部の学校医の意見しか拾い上げられていないと思われるので、学校に対する調査と合わせて、学校医の先生方にも直接意見を聞きたいと考えております。学校医の先生方がストレスなく健診できる環境を作っていくためにはどうすればよいのか？今後も引き続き考えていきます。そしてそれとは別次元の話ではありますが、学校医側も、児童生徒に不安を感じさせるような行動は避けるよ

うにすることも必要なことと考えます。

もう一つは小学校記録会（小学生水泳記録会、小学生陸上・持久走記録会、京キッズRUN）の医師出務についてです。以前は休日の開催が多かったため比較の出務しやすかったのですが、最近は平日開催が多くなり、出務できる医師をさがすのに苦労し、特定の先生にお願いせざるをえない状況になっています。できるだけ休日や土曜日午後の開催を要望しているのですが、会場費の問題や学校の先生の働き方改革もあり、なかなか厳しいようです。平日でもせめて水曜日や木曜日など、休診されている先生が比較的多くなる曜日の開催を要望しますので、出務可能な先生は是非よろしくお願いたします。

その他、学校医の定年制や健康診断の代診、成長曲線の活用についても意見交換がなされました。全国的に学校医のなり手が少なくなる傾向にあるようで、京都においても学校医不足の影響が出てくるのが懸念されます。

7月28日、札幌市において指定都市学校保健協議会が開催されました。その前日には開催地の札幌市医師会主催の学校医研修会が開催されました。コロナ禍の2020年は誌上開催、2021年から2023年まではWEB主体の開催でしたが、5年振りに以前と同じ形の現地での開催となりました。両日の発表の詳しい内容については、この後の報告書をご覧ください。札幌市は28日のお昼頃まで雨だったため湿度は高めでしたが、両日とも最高気温28度に届かず、命の危険を感じるような暑さの京都に戻りたくない気持ちになりました。暑さはまだまだ続きます。みなさんどうぞご自愛下さい。

## 第75回指定都市学校保健協議会 第1分科会【健康教育】を聴講して

川岡東小学校医 山内英子

第1分科会の協議題は「主体的に健康の保持増進に取り組む能力を育成する健康教育の在り方」

児童生徒が主体的に自らの健康の保持増進に取り組む健康教育について協議することが主旨である。協議の視点は

- 健康課題を解決するために主体的・実践的に取り組む力を育てる健康教育について
- 学校・家庭・地域及び関係諸機関との連携による効果的な健康教育について

No.1 児童保健委員会の活動と教職員で連携して進める健康教育の実践

～学校から家庭、コミュニティへの発信～  
浜松市立中ノ町小学校 養護教諭

大石 育与氏

保健委員が目的意識をもって発信することで、学校全体の健康への興味関心を高め、健康課題を自分事としてとらえられるようにしたいと考え、健康課題解決、改善に向けて取り組んだ。

生き生きプロジェクト：

自分たちで考え、よいと思ったことは積極的にやる。安全に歩こう週間、けが予防プロジェクト

保健週間：保健委員会お仕事体験ツアー、メディアアクイズウォークラリー

こころの日：5(こ)+5(こ)+6(ろ)=16で毎月16日に実施

いじめ対策コーディネーターとの連携、保健主事との連携、家庭や地域との連携

No.2 学校健診を活用して受診勧奨

～静岡市の取り組みについて～

静岡市静岡医師会 学校医園医委員会

大久保 由美子氏

身長や体重については何らかの所見があっても緊急性が低いいため、学校健診の場では医療機関につなげることは後回しにされていることが多いのではないと思われる。身長・体重の判定を9つの群に分け、それぞれについて学校での対応、かかりつけ医での対応についてわかりやすいスク

リーニング基準を作成した。身長体重に関する諸疾患が早期発見され、早期治療できることを期待している。

No.3 からだの元気は口から 健康は健口から

～生きる力を育む歯・口の健康づくり～

大阪市立横提小学校 養護教諭

米田 美絵子氏

歯・口腔の健康に関心を持たせることが、身近な生活における自身の健康づくりにつながると考え、口の中の健康を保つことが全身の健康につながることを児童に伝え、主体的に健康の保持増進に取り組む能力を育成した。高知県の小学校とのオンラインで歯科保健交流を行った。歯・口のけがの防止と安全な環境づくりのために、体幹トレーニングの体操を実施。結果、永久歯の虫歯処置は100%、外傷による医療機関への受診数も減少した。

No.4 中学生のネット依存に関する効果的な予防教育を探る

～ネット依存レベルとセルフコントロール力の関連性から～

千葉市立高洲中学校 養護教諭

板垣 友香氏

ネット依存は特に中高生に急増していることに加え、その低年齢化が全国的に深刻な問題となっている。千葉市内の調査から、中学生の98.5%がネット利用している。高リスク使用者が全体の1%、潜在的リスク使用者が全体の33.1%を占めていた。依存レベルが上がるほど、ネット利用が長時間の傾向にある。リスク使用者群は一般使用者群に比べ、セルフコントロール力が弱いことが明らかになった。

そこでアウトメディアチャレンジプロジェクトを計画し、実施した①自分で目標を設定すること②その目標の達成に向けた生活をする③その期間で得られた経験を振り返り、今後どのように生活をして行きたいかを考えること、などがセルフコントロール力の育成につながったと考える。

No.5 成長・命の大切さを伝える保健教育  
～震災後の心とからだのケアの取り組み～  
仙台市桂小学校 養護教諭  
草木 早紀氏

震災から12年が経過し、現在本校にいる児童は震災後に生まれ、直接震災を経験していない。しかし、児童の保護者に震災当時の被災状況を尋ね

ると、家屋流出・全壊・半壊の家庭は40%以上で、保護者や兄弟は震災の怖さや苦労を経験しており、児童にもその影響が感じられる時がある。これからも児童の心とからだに寄り添うことができるよう、心のケア研修を行い、児童と丁寧にかかわり、いのちの授業と保健教育の取り組みを継続していきたい。

## 第75回指定都市学校保健協議会

### 第2分科会「保健管理」報告

太秦小学校医 井本 雅 美

第2分科会では「児童生徒の健康の保持増進を目的として学校・家庭・関係諸機関が連携を図った保健管理の在り方」というテーマで発表と協議が行われました。

○主旨：児童生徒の健康の保持増進を図るため組織的に連携する保健管理について協議する

○協議の視点：

- 1) 児童生徒の健康課題解決に向けた組織的な対応について
- 2) 効果的な健康診断や望ましい食生活の実践に向けた取組について

○口頭提言題及び提言者

No.1 成長曲線を用いた学校健診では、学校現場・教育委員会と医療機関の連携が不可欠である

新潟市民病院小児科 医師 阿部 裕樹

No.2 「いのちの授業」を通してみえてきたもの～児童と家庭・地域をつなぐ役割と保健管理～

堺市立三宝小学校  
保健主事 大阿見 和来

No.3 保健室での実態把握を基にした「つながる」保健管理

～目の健康を守る活動を例に～

名古屋市立老松小学校 養護教諭  
照井 幸代

No.4 やさしく・強く・しなやかな いずみっこを育む 包括的性教育

神戸市立泉台小学校  
教諭 池内 聡史 他2名

No.5 自己の未来を切り拓く勝馬っ子の育成  
～よく働き、よく遊び、元気いっぱいプロジェクト～

福岡市立勝馬小学校 養護教諭

田中 実乃里

ここでは、成長曲線を用いた学校健診について発表された1番目の発表について書きます。

平成28年に文部科学省が、子どもの成長を評価する上での身長曲線・体重曲線の重要性について名言したため、平成28年度以降、「成長曲線作成プログラム」が日本学校保健会から全国の学校に配布され、これによって成長曲線・肥満曲線を描くことができるだけでなく、病的状態の可能性の高い9グループを抽出することができるようになりました。

しかし、このプログラムを用いた場合、非常に多くの児童生徒が抽出されるため、新潟市では学校保健成長曲線検討委員会（教育委員会、養護教諭、医師会、市民病院で構成）を発足し、受診勧奨、経過観察基準の見直しが行なわれ、平成29年度に新潟市暫定受診案が策定されました。その後も小児内分泌専門医、教育委員会、養護教諭の代表で検討を行い基準の改定を積み重ねておられます。

成長曲線を用いた健診が始まった当初から、経過観察や受診勧奨の割合が学校によって非常にばらつく（学校医によって考え方にばらつきがある）ことが問題でしたが、新潟市受診基準案に沿って養護教諭が振り分けたものを学校医がチェックすることにより、学校医が一から判断するより負担が軽減されたということです。また、養護教諭が振り分けの判断に迷う場合は、検討委員会の専門医に相談し、そ

の内容を学校医に確認するシステムも構築されており、このように、立場を超えて連携していくことにより、学校間の格差や受診者の取りこぼしを減らすことができる、という内容の発表でした。

成長局線を活用した学校健診については、第1分科会のNo.2においても発表されていました。

その他の演題にご興味がおありの方は、学校医会事務局に抄録集がありますので、お問い合わせ下さい。

## 南支部会報告

南支部長 關 透

7月6日イタリアンバル ダッテンで南支部会が開催されました。コロナ禍以来支部会が開催できなかったが久しぶりの開催となりました。

南支部会は前支部長の清水先生から7月の第一土曜日となっていたので慣例により7月6日としました。

残念ながら当日は下京東部医師会のビアパーティーと重なり数名の先生は参加できませんでした。

本部からは杉本前会長と長村監事（井本会長は所用の為欠席）が参加されました。

杉本前会長より文部科学省決定事項の着衣健診の説明など経緯の説明等ありました。それぞれ参加者から一言づつお話ししていただきました。その後懇親会では和気あいあいと皆でイタリア料理ワインなど美味しくいただきました。

参加者氏名 敬称略

南支部 山田武彦、角谷登美子、内田亮彦、  
今井博之、岡本行功、關 透

杉本英造（監事 前会長）、長村吉朗（監事）

## 全 理 事 会

令和6年8月3日 於：うを多

**出席者** 井本会長、山内副会長、安野専務理事、大久保・中嶋・西村・八田・守上各常任理事、米田・公手・辻・廣田各理事、松波耳鼻咽喉科専門医会理事、林議長、杉本監事

**会長挨拶**

**<報告事項>**

1. 色覚相談 なし
2. 精神衛生研究会 7/11
3. 市教委との懇談会 7/20  
於：ザ・サウザンド京都
4. 第46回近畿学校保健連絡協議会 7/25  
於：和歌山県民文化会館 小ホール
5. 第75回指定都市学校保健協議会・学校医研修会 7/27 於：札幌パークホテル  
井本・山内・長村・杉本、有井・奥村・鈴木顧問、柏井先生
6. 第75回指定都市学校保健協議会 7/28  
於：札幌ガーデンパレス  
井本・山内・杉本、有井・奥村顧問

7. 第35回水泳記録会 7/29  
於：京都アクアリーナ 守上
8. 京都市学校保健会 令和6年度功労者表彰について 請田修一先生、吉岡 博先生を推薦
9. 各支部報告
10. 学校健診での成長曲線の利用について
11. その他

**<協議事項>**

1. 養研との懇談会協議事項について 9/7 17:00～  
於：ザ ロイヤルパークホテル京都三条B1F
2. 「きょうと妊娠SOS・性の相談LINE」に係るチラシと名刺サイズのカードを校医ニュースと同送で会員へ周知について
3. 就学前の予防接種配布プリントについて
4. その他

**<関連学会・各種協議>**

1. 色覚相談 9/3、9/17 各1名
2. 第4回常任理事会 9/7 15:00～ 事務局
3. 京都市養護研究会との懇談会 9/7 17:00～  
於：ザ ロイヤルパークホテル京都三条B1F
4. その他